令和5年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」問題用紙

次の文章を読んで以下の問1、問2に答えなさい。

数日前に、小論文が書けないと相談をしてきた高三の R さんが「自分の思考を言葉にできないんです」と言ったので、私はとっさに「自分の思考って何？」と尋ねてみたのですが、彼女は「うーん」と考え込んだきり、何も言えなくなってしまいました。

このとき私は「自分の思考を言葉にできない」と言ったばかりの彼女に対して「自分の思考って何？」と言葉で答えさせようとしていたわけで、そんなの答えられないにきまってるんですが、ここで私が尋ねたかったのは、いま R さんが言った「自分の思考」ってほんとうにあなたの中にあるの？どうしてそう言えるの？ ということです。

構造主義（*注）の立役者の一人として知られる言語学者ソシュールが明らかにした言語についての大きな成果の一つは、私たちが「自分の思考」だと思っているそれは、言葉で表現されることによって初めて生じたのであり、思考が言葉とは別に自分の中にあるわけではない、ということです。

このことを踏まえれば、あなたがもし小論文を書くときに何か適切な表現を見出したとしたら、それはあなたの中にすでにあった「自分の思考」に言葉を与えたわけではなくて、あなたが言葉を見出すと同時に、その言葉が表現する思考を作り出したわけです。ということは、R さんの「自分の思考を言葉にできない」という言明はちょっと無理がありそうです。だって、この言い方は「言葉」に先立って「自分の思考」があることを含意していますから。

そうではなくて、彼女は単に「自分の思考」のようなまとまったものは何もないこと、言葉が不足しているから十分な思考が成立していないことを認めなければならなかったのではないでしょうか。でも、そんなことを認めるのはイヤですよね。なんだかバカにされている感じがします。

R さんは直球で小論文が「書けない」ことを悩む生徒でしたが、①小論文が「書ける」と思っている生徒だって大差はないかもしれません。高校生たちの小論文の答案を読んでいると、勇敢にも問題文（著作家たちの執筆内容）に真っ向から反論を試みるものが多く見られます。中には面白いものもあるのですが、しかし、そのほとんどが言葉足らずのイキリ芸に終始しています。

過剰なエネルギーが空回りする彼らの文章を読むのは、真夏のビーチでモヒートを飲んだときのような爽やかな快楽さえあるのですが、でも、問題文の論旨を全く理解できないまま、苦し紛れに的外れな自分語りをしているそれは、お世辞にも良い文章とは言えません。

それにしても、②「自分の思考」は言葉と同時に生まれるのであって、言葉以前には自分の思考などないなんて、私たちはなんておぼつかない存在なのでしょうか。それをさらに煮詰めて考えてみると、そのおぼつかなさは言葉がはじめから持っている性質に由来していることがわかってきます。

注:ここでは一九六〇年代に登場し、おもにフランスを中心に発展した現代思想の一つ。ソシュールの言語理論の影響のもとで、現象を成立させている規則や関係などの構造を分析する。

（鳥羽和久『君は君の人生の主役になれ』筑摩書房、2022 年、107-109 頁。注は著者の付したもの。出題のため、問題文の一部を改変している）

問1　下線部①について、R さんが小論文を書けなかった理由を 200 字以内で説明しなさい。

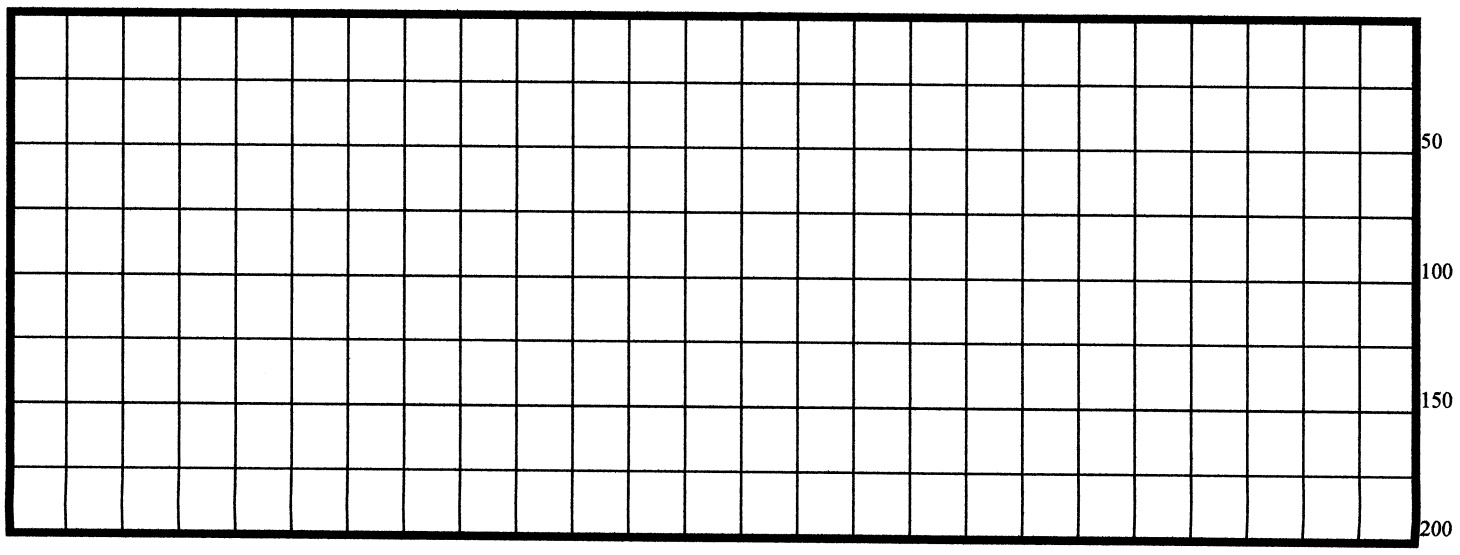
問2　下線部②について、あなたの考えを 600 字以内で述べなさい。

令和５年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」解答用紙

受験番号	

問１

→横書き



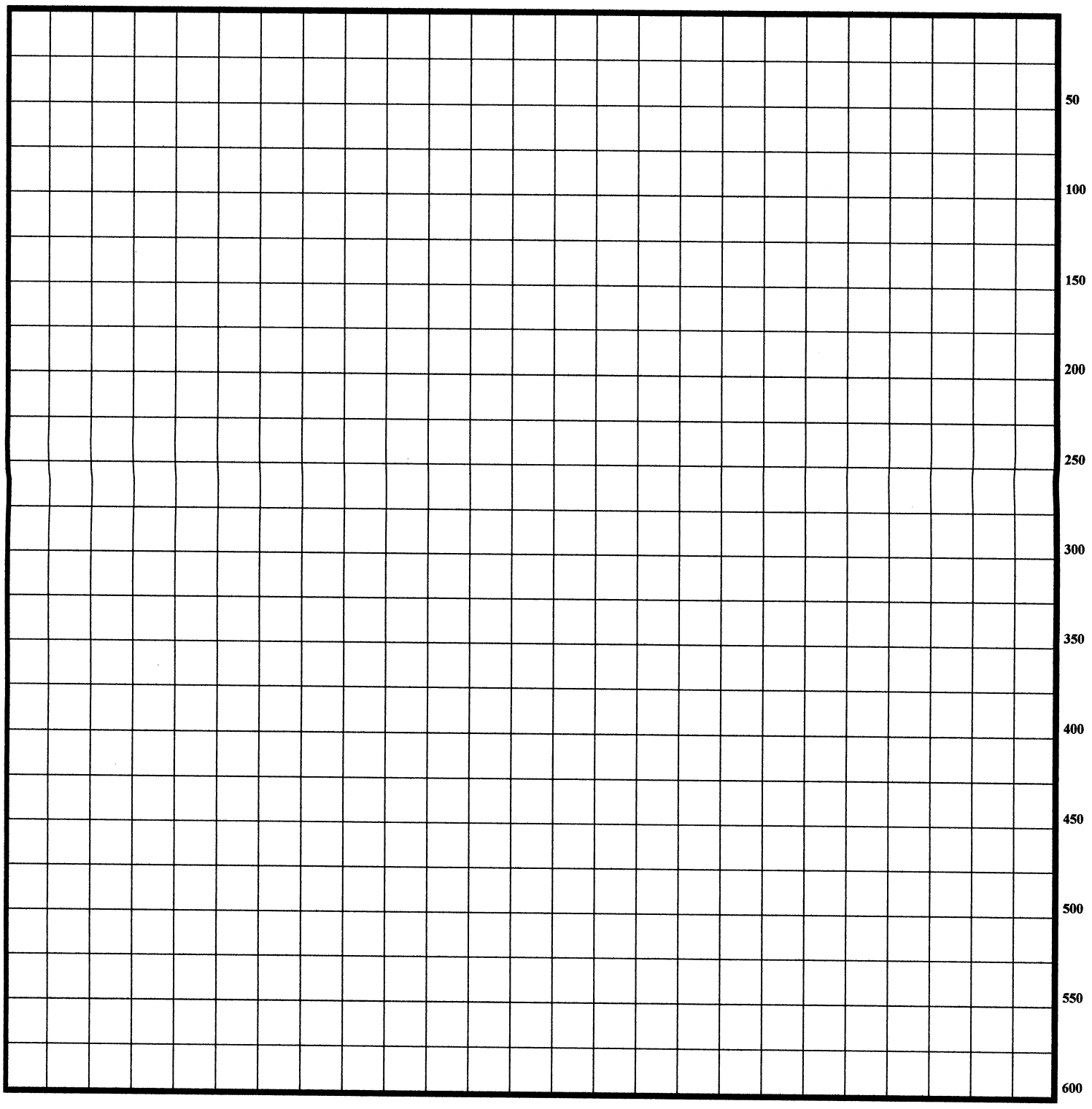
得点

令和５年度山口県立大学国際文化学部国際文化学科
外国人留学生選抜「小論文」解答用紙

受験番号	

問２

→横書き



得点	総得点